

経済トピックスと解説

逆走ニッポン 今すべきこと

1月27日(日経朝刊)

米国の住宅バブル崩壊で世界経済が変調を来すなか、日本は塹壕(ざんごう)にこもるような内向き志向を強めている。改革後退はグローバルに見た魅力の低下に拍車をかけている。逆境を乗り越え、成長する国をつくれるかの底力が試される。

《解説》・・・改革できない国は世界から見放される。

米国発のサブプライム問題、もう聞き飽きた話題です。昨年8月に、ドイツのI K B 産業銀行が経営危機に陥ったという知らせが、世界的問題になったきっかけでした。詳細は、本誌07年9月号に載せていますので参考にしてください。

現在、日本株は、大きく値を崩しています。その原因がサブプライムローン問題にあるように言われていますが、本当にそうでしょうか。下の表を見てください。この表は、サブプライムローン問題が、国際的問題として浮上してきた昨年8月始めと今年2月始めの株価を比較したものです。そして、変化率を見ています。

日本株は20%以上も値を下げて、一人負けです。当の、アメリカDOWは95.5%の変化率で、ほとんど変化がありません。ヨーロッパの各国も同様です。インドSENSEXやブラジルIBOVESPAに至っては、株価はむしろ上昇しています。

このことは、今の日本の株安が、決してサブプライムローン問題のみに起因するものではないことを如実に物語っています。



つくば中央公園内 さくら民家園のひな人形

国別市場	日本 日経 225	中国上海 SSE	韓国 KOSPI	インド SENSEX	イギリス FTSE	ドイツ DAX	ブラジル IBOVESPA	アメリカ DOW
07年8月始め	17,000	4,500	1,950	15,000	6,300	7,500	54,000	13,300
08年2月始め	13,500	4,400	1,650	18,500	5,900	6,800	60,000	12,700
変化率(%)	79.4	97.8	84.6	123.3	93.7	90.7	111.1	95.5

(筆者作成)

では、日本に何が起きているのでしょうか。そこで、最近話題に上っている問題を取り上げて、少し皆さんとともに考えてみたいと思うのです。

まず、最初が、「空港外資規制」の問題です。なぜこの問題が浮上したかということ、成田国際空港会社が2009年以降に上場される予定であること。それに、羽田空港ビルディング会社が、豪投資銀行マコーリーに20%の株を買われていることがわかったことによります。国土交通省の言い分は「空港の経営権が外資に握られると、安全保障上の懸念が生じる。」というものです。いかにも尤もな言い分です。

しかし、上場しているのは、空港ビルの管理を行う会社であって、空港全体を運営している会社ではありません。滑走路の使用は国がその権利を保有しています。それに、外為法では、安全保障上の懸念などが生じた場合は、出資の中止を決定できるという規定もすでにあるのです。外資を規制しようとする本音は、国土交通省からの天下り先を確保しようという魂胆からではないかと、いう議論もあります。

もう一つの問題は、今も国会で論議されている“ガソリン税”です。「道路特定財源」「暫定税率」という点が表面上は議論の中身です。しかし、議論すべき本当の焦点は、実は真に必要な道路は何か、道路以外の「福祉」を中心とした他の必要費用との優先順位とその割り振りをどうするか、ではないでしょうか。さらには、現在700兆円もある日本の借金をどのように返済していくのかであらねばなりません。どう見ても、道路があればそれで良い、ということは有り得ません。当然、政府も国会議員もこのところは分かっているのに、それでも「道路特定財源」「暫定税率」にこだわる本当の理由は何か。そのこのところを、主権者である国民は見抜く力を持たないといけないと思います。

さて何故、日本株価が、世界で一人負けしているのかという点に話を戻したいと思います。日本の今の政治の底に黒々と横たわっている考え方は何でしょうか。保守的で鎖国的な考え方、そして官僚を中心とした既得権がすべての基本となる政策決定の考え方、ではないでしょうか。そして、これらのことを、ドライで効率を追求するためには新しい考え方の導入に何の躊躇もしない、世界の金融関係者は、日本の後進性として、見抜いているのではないのでしょうか。ちょうど鵜が川の中を泳ぐ小魚を見つけるように。高い空からでも、鷹に野を走るうさぎが見えるように。

日本株式市場の売買の7割を海外の投資家が占めています。彼らは、ドライに儲けるために、投資先を探しています。魅力のない所に投資するわけがないのです。そして外資は上げました。結果として、日本株が下がっているのです。外資が入らない国の経済や国民生活は疲弊します。

今も、今後も日本は世界の一員として、政治も経済も取り組まねばなりません。古臭いカビの生えた、おぞましい国粋主義のような感覚では国を治めることはできません。衰退の一途をたどることは目に見えています。

理論的で、合理的な考え方が全体を支配していて、誰もが生活し易い、そんな国を一日も早く作りたいたいものです。

お知らせ

次回セミナーのお知らせ

テーマ：ゆとりあるセカンドライフを過ごすために
※金融機関では教えてくれない資産運用のポイントについてお話しします ※

日時：3月22日（土曜日） 10：00より11：45

場所：つくば国際会議場 401号（4階）

参加費：1家族1,000円（Tel、Fax、ホームページ）などご予約下さい）

なお、5月31日（土）は「住宅ローン」に関する、また6月21日には「相続」に関するセミナーを行う予定です。

どうぞ、ご参加ください。

以上



マンション玄関前の花壇

このレポートの記述は、株式、保険等の売買を推奨するものではありません。株式、保険等の売買は自己の責任において行って下さるようお願いいたします。

ご意見、不明点など御座いましたらお気軽に連絡下さい。 なお複写、転載はご遠慮下さい。
発行人：スズタカFPオフィス 代表 鈴木隆志 茨城県つくば市東新井4-2メゾンヴェールつくば612号
Tel,Fax：029-861-0778 携帯：090-4423-9147 E-mail：suzu@suzutaka.org URL：http://www.suzutaka.org